

ベニズワイの資源管理の成果と展望

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所
副主幹研究員 内山 勇

1 背景・ねらい

富山県のベニズワイ漁獲量は1978年から1998年まで減少傾向を示し、資源状態の悪化が懸念された。そこで1999年漁期（漁期：9月～翌年5月）から法規制（メスと甲幅90mm以下のオスの捕獲禁止、6～8月禁漁）に加え、漁獲限量制（1漁期800トン）を内容とした自主的な資源管理方策を実施し現在に至っている。資源管理10年の節目を迎え、ベニズワイ資源はどのような状態にあるのかここ10年の資源動向から検討し、成果と展望を探る。

2 成果の概要

(1) 資源の動向

湾外漁場を中心に近年になって漁獲対象資源の増加傾向が認められた。湾内での深海ビデオ観察調査で、漁獲サイズよりも小さなカニの密度が近年増加し、卓越年級群の発生が推測された。また2008年には、サイズに関わらず湾内への資源の移入が推測された。

(2) 管理効果

現行の資源管理方策下で、卓越年級群の発生や移入資源の存在が推測され、現在の漁業の強さは、資源の持続的利用を妨げない強さと考えることが出来る。

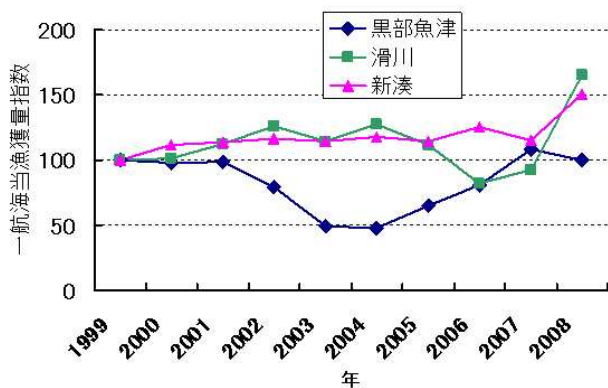


図1 1航海当り漁獲量の年変化。1999年を100とする指数で示す。黒部魚津は富山湾外、滑川は湾中央、新湊は湾奥漁場に対応。

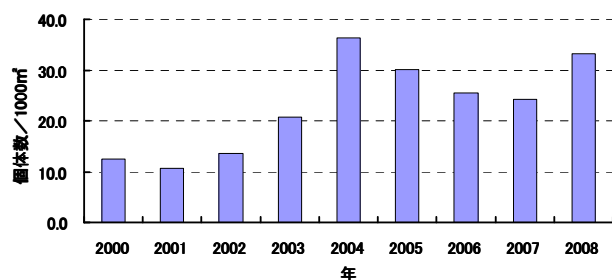


図2 深海ビデオカメラによるベニズワイの観察密度

3 成果の活用面・留意点

(1) 近年の資源の増加傾向を資源管理の成果と捉え、今後も積極的に資源管理に取り組み、ベニズワイ資源の持続的利用を図る必要がある。

(2) 最近の添加資源量が少ない可能性があり、調査を継続し今後の動向を注視する必要がある。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所海洋資源課

担当：副主幹研究員 内山 勇

TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

